

国立民族学博物館研究報告 vol.15-2; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	15
号	2
発行年	1990-12-28
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009208

1990—15_卷2_号

国立民族学博物館 研究報告



ボリビアの農民

——農民の「行動の記録」の分析（その1）—— 藤井龍彦

司祭と靈媒

——スリランカ・タミル漁村における村落祭祀の分業関係をめぐって—— 田中雅一

インド密教の図像学的資料（1）

——『サーダナ・マーラー』における獅子吼観自在の成就法—— 佐久間留理子



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

15 卷 2 号

1990 年

目 次

ボリビアの農民 ——農民の「行動の記録」の分析(その1)——	藤井龍彦	349
司祭と霊媒 ——スリランカ・タミル漁村における村落祭祀の分業関係をめぐって——	田中雅一	393
インド密教の図像学的資料(1) ——『サーダナ・マーラー』における獅子吼観自在の成就法——	佐久間留理子	511
彙 報		565
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		570
国立民族学博物館研究報告執筆要領		571

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 15 No. 2

1990

- FUJII, Tatsuhiko Life of the Bolivian Peasant: An Analysis of Diary
Entries 349
- TANAKA, Masakazu Priesthood and Mediumship: Their Relationships at
a Hindu Village Festival in a Tamil Fishing Village,
Sri Lanka 393
- SAKUMA, Ruriko Iconographical Material for the Study of Tantric
Buddhism in India (1): The *Sādhana*s of Siṃhanāda-
Avalokiteśvara in the *Sādhanamālā* 511

彙 報

(平成2年4月～平成2年6月)

人事異動

(行政職)

- (昇任)
- 4月1日 管理部施設課長 堀井 克彦
(大臣官房文教施設部大阪工事事務所施設係長)
管理部会計課課長補佐
山口 武美
(大阪大学経理部管財課管財第一掛長)
(配置換)
- 4月1日 京都教育大学施設課長
山本 政治
(管理部施設課長)
東京大学附属図書館情報管理課長
高橋 柏
(情報管理施設情報企画課長)
情報管理施設情報企画課長
若月 修
(大阪大学附属図書館情報管理課長)
大阪大学経理部主計課課長補佐
井村 祐二
(管理部会計課課長補佐)

(教育職) (3月～6月)

- (退職)
- 3月31日 第三研究部教授 和田 祐一
(任期满了)
- 3月31日 東北大学・第一研究部併任教授
杉山 晃一
東京大学・第一研究部併任教授
大林 太良
大阪大学・第二研究部併任教授
青木 保
京都大学・第二研究部併任教授
井狩 彌介
広島大学・第四研究部併任教授
佐藤 信行
筑波大学・第四研究部併任教授
牛島 巖

京都大学・第五研究部併任教授

- 田中 二郎
(名誉教授称号授与)
- 4月1日 和田 祐一
(昇任)
- 4月1日 第一研究部教授 周 達生
(第一研究部助教授)
第五研究部教授 大丸 弘
(第五研究部助教授)
- 6月1日 京都大学助教授 久保 正敏
(第五研究部助手)
- 6月16日 第二研究部助教授 吉本 忍
(第二研究部助手)
第三研究部助教授 大塚 和夫
(第三研究部助手)
(客員研究部門)
- 4月1日 第四研究部教授 小谷 凱宣
(名古屋大学教授)
第一研究部助教授 瀬川 昌久
(東北大学助教授)
第二研究部助教授 田中 雅一
(京都大学助教授)
第四研究部助教授 中山 和芳
(東京外国語大学助教授)
第五研究部助教授 佐藤 俊
(筑波大学助教授)

評議員

- | 氏名 | 任期 |
|-------|-------------------|
| 石川 榮吉 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 伊地智善繼 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 上山 春平 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 梅原 猛 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 大西 昭男 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 北村 甫 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 木田 宏 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 熊谷 信昭 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 祖父江孝男 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 土田 直鎮 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 坪井 清足 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 直江 広治 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 中尾 佐助 | (2. 9.15～4. 9.14) |
| 中根 千枝 | (2. 9.15～4. 9.14) |

西島 安則 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 樋口 敬二 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 宮田 満雄 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 向坊 隆 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 村山 松雄 (2. 9. 15~4. 9. 14)

運営協議員

綾部 恒雄 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 飯島 茂 (2. 4. 1~4. 3. 31)
 石井 米雄 (2. 5. 16~4. 5. 15)
 伊藤 幹治 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 大貫 良夫 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 口羽 益生 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 谷 泰 (2. 4. 1~4. 3. 31)
 長島 信弘 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 松園万亀雄 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 山口 昌男 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 米山 俊直 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 石毛 直道 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 大給 近達 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 片倉 素子 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 崎山 理 (2. 4. 1~4. 3. 31)
 佐々木高明 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 杉村 棟 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 杉本 尚次 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 竹村 卓二 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 友枝 啓泰 (2. 9. 15~4. 9. 14)
 藤井 知昭 (2. 9. 15~4. 9. 14)

情報システム運営委員

井上 如 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 及川 昭文 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 大林 太良 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 国井 利泰 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 柴田 正美 (元. 11. 16~3. 11. 15)
 田中 琢 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 辻 三郎 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 長尾 眞 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 中野 照海 (2. 10. 1~ 4. 9. 30)
 中山 和彦 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 八村廣三郎 (2. 10. 1~4. 9. 30)

星 仰 (元. 11. 16~3. 11. 15)
 松村多美子 (2. 7. 1~4. 6. 30)
 吉田 将 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 佐々木高明 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 松澤 員子 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 大給 近達 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 杉田 繁治 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 長野 泰彦 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 栗田 靖之 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 小山 修三 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 藤井 龍彦 (2. 7. 1~4. 6. 30)
 田中 武雄 (元. 4. 1~3. 3. 31)

国内資料調査委員

石塚 尊俊 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 泉 房子 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 犬塚 幹士 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 今村 充夫 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 上江州 均 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 大村 和男 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 勝部 正郊 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 萱野 茂 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 神崎 宜武 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 木崎 和廣 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 岸田 定雄 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 喜多 慶治 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 木下 尚子 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 倉田 亨 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 小谷 方明 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 小泊 立矢 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 坂本 育男 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 坂本 正夫 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 佐野 賢治 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 澤 四郎 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 篠原 徹 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 下野 敏見 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 鈴木 尚夫 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 高橋 克夫 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 立平 進 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 田中忠三郎 (元. 4. 1~3. 3. 31)
 鶴藤 鹿忠 (元. 4. 1~3. 3. 31)

都丸九十九 (元. 4. 1~3. 3.31)
 名久井文明 (元. 4. 1~3. 3.31)
 西村 綏子 (元. 4. 1~3. 3.31)
 野口 光敏 (元. 4. 1~3. 3.31)
 橋本 鉄男 (元. 4. 1~3. 3.31)
 福田 栄治 (元. 4. 1~3. 3.31)
 藤本 英夫 (元. 4. 1~3. 3.31)
 松下 亘 (元. 4. 1~3. 3.31)
 山口 賢俊 (元. 4. 1~3. 3.31)
 山路 興造 (元. 4. 1~3. 3.31)
 和田 正洲 (元. 4. 1~3. 3.31)

館内各種委員会

○標本資料委員会委員

杉本 尚次	佐々木高明	杉村 棟
大丸 弘	大塚 和義	吉本 忍
小川 了	大塚 和夫	藤井 龍彦
石森 秀三	森田 恒之	近藤 雅樹
佐藤 浩司	森口 節之	若月 修
熊谷 俊夫		

○映像・音響資料委員会委員

竹村 卓二	佐々木高明	田邊 繁治
櫻井 哲男	小長谷有紀	大森 康宏
庄司 博史	八杉 佳穂	朝倉 敏夫
森口 節之	吉田 哲廣	熊谷 俊夫
重松真由美		

○ビデオテーク委員会委員

竹村 卓二	佐々木高明	松山 利夫
吉本 忍	端 信行	大森 康宏
佐藤 浩司	山本 泰則	金谷 英夫
森口 節之	吉田 哲廣	熊谷 俊夫

○図書委員会委員

竹村 卓二	佐々木高明	守屋 毅
小長谷有紀	吉田 集而	宮本 勝
永ノ尾信悟	黒田 悦子	石森 秀三
大丸 弘	野村 雅一	大塚 和夫
森口 節之	吉田 哲廣	熊谷 俊夫

○国内資料調査委員会委員

杉本 尚次	佐々木高明	大丸 弘
大塚 和義	守屋 毅	松山 利夫

秋道 智彌	中牧 弘允	櫻井 哲男
近藤 雅樹	吉田 憲司	佐藤 浩司
森口 節之	若月 修	吉田 哲廣
熊谷 俊夫		

○情報化委員会委員

佐々木高明	杉田 繁治	大塚 和義
長野 泰彦	中牧 弘允	松澤 員子
栗田 靖之	松原 正毅	吉田 集而
江口 一久	庄司 博史	小山 修三
藤井 龍彦	山本 泰則	田中 武雄
森口 節之	若月 修	吉田 哲廣
熊谷 俊夫		

○HRAF 委員会委員

佐々木高明	石毛 直道	松澤 員子
栗田 靖之	大給 近達	杉田 繁治
福川 圭子	吉田 哲廣	

○広報委員会委員

藤井 知昭	和田 正平	崎山 理
秋道 智彌	近藤 雅樹	杉島 敬志
吉田 憲司	朝倉 敏夫	田中 武雄
金谷 英夫	奥出 栄治	森口 節之
若月 修		

○事業委員会委員

藤井 知昭	秋道 智彌	中牧 弘允
片倉 素子	山本 紀夫	野村 雅一
杉島 敬志	塚田 誠之	田中 武雄
金谷 英夫	奥出 栄治	森口 節之
若月 修	熊谷 俊夫	

○展示委員会委員

佐々木高明	石毛 直道	守屋 毅
松山 利夫	長野 泰彦	栗田 靖之
田邊 繁治	端 信行	永ノ尾信悟
小山 修三	森田 恒之	櫻井 哲男
八杉 佳穂	田中 武雄	金谷 英夫
奥出 栄治	森口 節之	若月 修

○出版委員会委員

友枝 啓泰	片倉 素子	崎山 理
垂水 稔	周 達生	長野 泰彦
江口 一久	石森 秀三	宮本 勝

山本 紀夫 佐々木史郎 林 行夫
 小川 了 杉村 棟 松原 正毅
 福井 勝義 泉 幽香 須藤 健一
 奥出 栄治

○防災対策委員会委員

竹村 卓二 佐々木高明 杉本 尚次
 友枝 啓泰 藤井 知昭 田中 武雄
 金谷 英夫 奥出 栄治 森口 節之
 堀井 克彦 若月 修 吉田 哲廣
 熊谷 俊夫

○施設整備委員会委員

友枝 啓泰 佐々木高明 松山 利夫
 田村 克己 大給 近達 福井 勝義
 泉 幽香 佐藤 浩司 田中 武雄
 森口 節之 堀井 克彦 若月 修

○大学院委員会委員

杉本 尚次 竹村 卓二 佐々木高明
 友枝 啓泰 藤井 知昭 石毛 直道
 片倉 素子 和田 正平 黒田 悦子
 崎山 理 田中 武雄 奥出 栄治

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
佐々木高明	教授(第二研究部)	2. 4. 7	2. 4. 17	タイ, ラオス
石毛直道	教授(第一研究部)	2. 4. 9	2. 4. 22	パキスタン, トルコ, エジプト, イタリア
松原正毅	助教授(第二研究部)	2. 4. 9	2. 5. 1	パキスタン, トルコ, エジプト, イタリア, フランス, 西ドイツ, アメリカ合衆国, ブラジル
栗田靖之	助教授(第二研究部)	2. 4. 9	2. 5. 1	パキスタン, トルコ, エジプト, イタリア, ベルギー, 西ドイツ, ブラジル
八杉佳穂	助手(第四研究部)	2. 4. 12	2. 5. 12	グアテマラ, アメリカ合衆国, メキシコ
中牧弘允	助教授(第一研究部)	2. 4. 14	2. 5. 1	エジプト, イタリア, フランス, 西ドイツ, ブラジル
櫻井哲男	助教授(第五研究部)	2. 4. 16	2. 4. 21	台湾
松澤員子	教授(第二研究部)	2. 4. 25	2. 5. 4	アメリカ合衆国
石毛直道	教授(第一研究部)	2. 4. 27	2. 5. 11	ソ連
長野泰彦	助教授(第一研究部)	2. 4. 27	2. 5. 6	中華人民共和国
永ノ尾信悟	助教授(第三研究部)	2. 6. 1	2. 7. 9	インド
周達生	教授(第一研究部)	2. 6. 26	2. 7. 17	中華人民共和国
吉本忍	助教授(第二研究部)	2. 6. 26	2. 7. 17	中華人民共和国

来館者抄

4月3日 キャサリン・ムアンゴ(ケニア
 大統領府行政室部長)
 4月6日 高 鋭(中国, 国家民族事
 務委員会外事司長)
 李 久 琦(中国, 北京民族図
 書館長)
 孫 若 究(中国, 中央民族学
 院教務長)

陳 广 英(中国, 青海省社会
 科学院藏学所長)
 平 措 旺 秋(中国, 西藏自治区
 民族委员会主任)
 王 堯(中国, 中央民族学
 院藏学教授)
 4月13日 張 德 勤(中国, 国家文物局
 長)
 宋 北 杉(中国, 国家文物局

- 外事所長)
逮 家 郷 (中国, 国家文物局
外事所職員)
- 4月17日 Vincent CHENG (香港, 政庁
政策顧問)
- 4月27日 Peter CHANG (中華民国, 国
立故宮博物館副館長)
- 5月11日 王 国 士 (中国, 内蒙古自治
区政府副秘所長)
徐 文 林 (中国, 内蒙古教育
庁副庁長)
周 衍 伯 (中国, 内蒙古引智
弁公室主任)
蘇 林 (中国, 内蒙古引智
弁公室幹部)
- 5月18日 吳 文 衛 (中国, 黒龍江省「北
方文物」(誌総編集長)
- 5月21日 Andrew Anderson SIWELA
(ザンビア, ザンビア大学副学
長)
Jacques LAUTMAM (フラン
ス, 科学研究庁社会人文科学局
長) 夫妻
Goery DELACOTE (フランス,
科学研究庁科学技術情報部長)
- 5月23日 Richard ADAMS (アメリカ合
衆国, テキサス大学教授) 夫妻
- 5月24日 小木新造 (財団法人東京都文化
振興会江戸東京博物館資料収集
室協力委員)
児玉幸多 (江戸東京博物館準備
室長)
- 5月25日 世界宗教者平和会議日韓青年交
流会一行 (40名)
- 5月31日 Stanley BRANDES (アメリカ
合衆国, カリフォルニア大学バ
ークレー校人類学部長)
- 6月4日 Rasha Hamood Al-Jaber Al-
sabaj (クウェート, クウェート
大学副学長)
Tamrat TADDESSE (エチオ
ピア, アジスアベバ総合大学社
会科学学部長)
- 6月6日 Willeam A. LONGACER (ア
メリカ合衆国, アリゾナ大学人
類学科長)
- 6月7日 文 道 祥 (韓国, 前韓国国際
文化協会総長)
- 6月8日 Mohamed AZIZA (ユーロアラ
ブ移動学部長)
- 6月11日 中国少数民族代表团一行
方 鶴 春 (中国理論研究会
理事)
雷 恒 春 (福建省民族研究
会会長)
史 志 義 (四川省民族経済
研究会常務理事)
袁 普 泉 (江蘇省民族研究
所副研究員)
蘭 海 濱 (中国国家民委外
事司幹部)
- 6月12日 Joachim SIOKE-Rainaldy (中
央アフリカ, バンギ大学総長)
- 6月19日 日中トインビーフォーラム一行
許 啓 賢 (中国人民大学理
論教育研究所教授)
吳 潜 涛 (同大学同研究所
講師)
吉澤五郎 (聖心女子大学キリ
スト教文化研究所室長)
川戸 力 (トインビー市民の
会総務理事)
保谷克海 (同会理事)
- 6月22日 James KOLLINS (アメリカ合
衆国, ハワイ州立大学東南アジ
ア研究所長)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13(4): 311-330。

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 15卷2号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

石 森 秀 三

江 口 一 久

片 倉 素 子

崎 山 理 生

周 達 生

須 藤 健 一

垂 水 稔 彦

長 野 泰 彦

林 行 夫

福 井 勝 義

松 原 正 毅

宮 本 勝

平成2年12月28日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 15卷2号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.15 no.2
1990

FUJII, Tatsuhiko

Life of the Bolivian Peasant: An Analysis of
Diary Entries

TANAKA, Masakazu

Priesthood and Mediumship: Their Relation-
ships at a Hindu Village Festival in a Tamil
Fishing Village, Sri Lanka

SAKUMA, Ruriko

Iconographical Material for the Study of Tan-
tric Buddhism in India (1): The *Sādhana*s of
Siṃhanāda-Avalokiteśvara in the *Sāghanamālā*



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X